

最終案

平成25年 2月 1日

周南市長 木村 健一郎 様

鹿野地区地域審議会

会長 安 永 守 ⑩

新市建設計画の進捗状況について（答申）

平成23年10月20日付け周企第258号で諮問のあった「新市建設計画の進捗状況」について、別紙のとおり答申します。

最終案

答申

1. 新市建設計画の進捗状況

リーディングプロジェクト事業のうち、「豊かさ」という視点から、安全で快適な暮らしを実現するための事業として、CATVサービスの開始、一般廃棄物最終処分場の整備、子育て支援センターの確保などは実施済みで、ライフラインの整備については、老朽水道管の更新及び下水道の整備事業も計画的に整備が行われている。

次に「一体性」という視点では、それぞれの住民が一体感を共有し、よりよいまちづくりの推進に向け、地域内交流・連携の促進事業及び地域の特性に応じた振興事業として、幹線道路整備については引き続き継続実施が必要であり、バス路線廃止に伴う新たな生活交通として乗合タクシーの運行、そして保健・福祉・医療・地域活動を促進する複合施設「コアプラザかの」は整備され、地域活動の拠点として地区住民をはじめ市民の皆さんに幅広く活用されている。

なお、合併記念公園事業については新たな整備は必要ないと考えているが、鹿野の自然環境を十分に活かして、景観のよい市民憩いの場、空間となるよう既存公園の整備を要望したい。なお、天神山公園の入り口に位置する老朽化した教員住宅は景観を害しており早期の解体を要望する。

次に主要施策事業として、市道、林道等の改良については随時実施されており、今後も未実施分については引き続き早急な実施が必要である。

鹿野小学校・中学校兼用の体育館は整備されており、鹿野地区2ヶ所（大地庵・柏屋）の市営住宅及び教職員住宅の建て替えについては、鹿野地区内の他の市営住宅の空き状況、また人口動向をみても新たな建設は必要ないが、古い住宅も多く改善は必要と思われる。

ストックヤード整備事業については、リサイクルプラザが完成したことによるごみ収集の変更により、天体観測施設整備事業は、計画当初の状況が変わったこ

ともあり、新たな整備は必要ないと考える。

消防防災体制の充実強化施策として消防緊急通信指令システムの整備、危険ため池整備事業はいずれも実施されている。

2. 同計画期間終了後の鹿野地区のまちづくりの方向性

市民の安心安全を地域の核として、過疎化、高齢化が進む鹿野地区においては豊かな自然、とりわけ水、山、川は貴重な財産であり、自然と共生・地域の保全がまちづくりの大きなテーマと考える。

市民の安心安全の確保では、鹿野地域山間部の携帯電話不感地域では、災害時における通話はもちろん、災害時の情報「しゅうなんメールサービス」等も受信できない状態である。携帯電話の不感地域解消に早急に取り組んでいただきたい。

また、鹿野地区における冬季の積雪は非常に多く、特に高齢者等は除雪に苦慮しており、交通手段の確保さらには日常生活にも支障が出るため、大変な不安を抱えることになる。今後も市民の安心を確保するためにも引き続き道路の除雪対策を含め、除雪に重点をおいた施策を要望する。

高齢者等交通弱者の交通手段として乗合タクシーはかかせないものであり、今後においても利便性の向上と存続を強く要望したい。

自然との共生・地域の保全では、ファンタジアファーム整備事業は、「都市と農村の交流」を促進し、中山間地域の活性化につなげる重要な施策として、しかも想定地区が鹿野地域ということで、大いに期待していたところであるが姿がまったく見えてこない。

鹿野地域は自然とのかかわりは不可欠で、「せせらぎ・豊鹿里パーク」や「名水百選」でもある清流通りから天神山周辺、また潮音洞やしだれ桜、さらには周南市の頂きである長野山や筋ヶ岳など、各地に点在する地域資源を生かし四季を通じて地域間交流の出来る環境整備の構築を要望する。

また、農林業を基幹として、豊かな恵みを育む水源の里として、市民共有の貴重な財産を有している。土地を守り、地域を守り中山間地域の活性化のため地域住民が森林・農地の利活用に取り組んでいる現状を認識され、関係機関等との連携のうえ、森林・農地の保全に強く取り組んでいただきたい。

ここにきて、公共施設の再配置計画が示され、鹿野総合支所の廃止ということが鹿野地区に広まっている。安定した市民サービスを提供できる行財政基盤の強化について意見を求められておられるが、総合支所の廃止は当審議会としては到底承認できるものではなく、地域振興の核として存在している総合支所の存続を強く望むものである。

以上をもって答申とする。